

# 県内の景気動向

## 景況感は全産業ベースでわずかに悪化

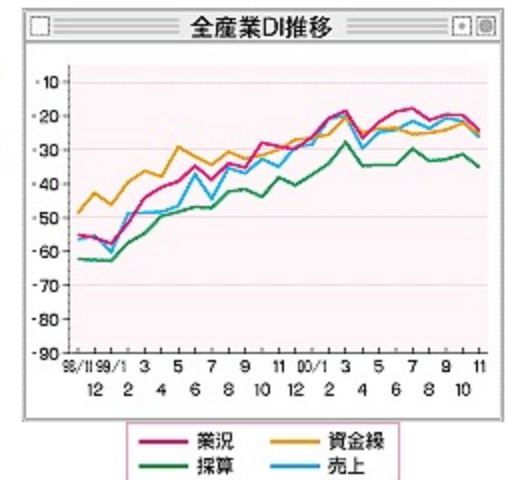
景況感は全産業ベースでわずかに悪化

### 2000.11月調査

- 本調査の対象企業は県内の中小企業1000社
- 今回調査の有効回答企業数は418社
- 回答企業の業種別内訳  
製造業190社・建設業53社・卸売業42社・小売業79社・サービス業54社

## 全産業

12月の調査結果（11月末時点）によると、11月の調査結果に比べ、全産業ベースでは主要調査項目の業況・売上・採算・資金繰りの全項目でわずかに悪化となった。産業別にみると「製造業」は業況・売上・採算・資金繰りでわずかに悪化となった。「建設業」は採算・資金繰りで前月並み、業況・売上でわずかに悪化となった。「卸売業」は採算で前月並み、業況・売上でわずかに改善となるも、資金繰りで若干の悪化となった。「小売業」は採算で前月並み、業況・売上・資金繰りでわずかに改善となった。「サービス業」は業況・売上・採算・資金繰りでわずかに改善となった。

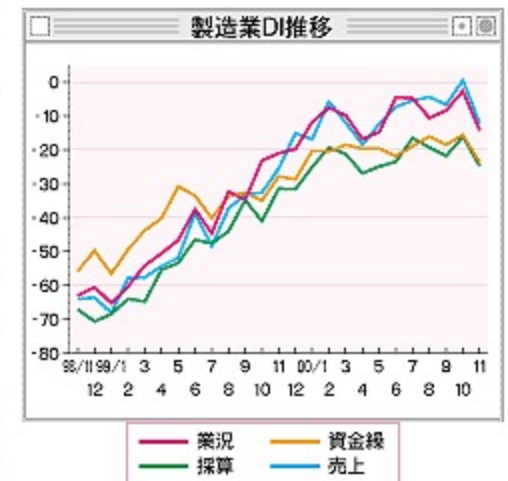


## 製造業

「食料品」は製品在庫・設備操業率でわずかに改善となるも、売上・資金繰りで若干の悪化、業況で悪化となった。「酒造」は製品在庫でプラスに転じる改善となるも、採算・資金繰り・設備操業率でわずかに悪化となった。「織物」は製品在庫で不変、そのほかの項目で悪化、特に業況・採算・資金繰りではマイナスに転じる悪化となった。「ニット」は採算・受注残高・製品在庫で改善となるも、業況で悪化となった。

「縫製」は資金繰りでわずかに改善となるも、そのほかの項目で悪化となった。「木材・木製品」は設備操業率でわずかに改善となるも、資金繰り・製品在庫で若干の悪化となった。「印刷」は全項目で悪化となった。「窯業・土石」は業況・受注残高でわずかに改善となるも、そのほかの項目で若干の悪化となった。「鉄鋼・非鉄」は製品在庫でプラスに転じる改善となるも、設備操業率でマイナスに転じる悪化となった。「金属」は業況・売上・設備操業率で悪化となった。「一般機械」は業況でわずかに改善となるも、受注残高・製品在庫でマイナスに転じる悪化となった。

「電気機器」は全項目でマイナスに転じる悪化、特に売上では一段の悪化となった。「輸送用機器」は売上・採算・資金繰り・受注残高・製品在庫でわずかに改善となった。「精密機器」は売上でわずかに改善となるも、そのほかの項目で悪化、特に資金繰りではマイナスに転じる悪化となった。「漆器」は受注残高で不変、そのほかの項目で改善、特に業況・売上・設備操業率ではプラスに転じる大幅な改善となった。「プラスチック」は製品在庫でわずかに改善となるも、売上・資金繰り・設備操業率で悪化となった。



- 県内食品製造関係、特に日配品関係のメーカーは大変な窮地に追い込まれ、ある業者を除いてほとんどが店じまいするという話を聞いた。中央の景況報告では「明るい見通し」と言っているが、地方の業者は正に正念場である。【食料品】
- 旧市内商店の空洞化が解決されなければますます悪化するのみで、市の行政に不満。【食料品】
- 今期の決算は増収増益となりそう。厳しい時代でも数字は作れると思っている。【食料品】
- スーパーとの取引をやめ、取引先を小売店に絞った。全体的に大変であるが高齢化のためやむを得ない。【食料品】
- 先行き不透明、冬物が動き出す。操業停止の業者が散見される。【縫製】
- 中国からの実習生6名の入社により、従業員の生産意欲が向上した。【縫製】
- IT重視で第一次、第二次産業が悪化。【木材・木製品】
- 作業量が少ないため、下請業者の単価を引き下げることのみである。【木材・木製品】
- 最悪の環境にあり、今後会社が存続できるかどうか決断の時期にある。【木材・木製品】
- 受注量に大幅な変化は見られない。したがって単価が低迷し、資金繰りを悪化させている。【鉄鋼・非鉄】
- 当年度上期の受注高は過去最高、目下生産体制の拡充整備を推進中である。【一般機械】
- 海外移転が再加速の様相、そのための生産調整が出てきている。【電気機器】
- 来年1月からの受注高がはっきりしない。同業者の間でも受注が決まっていたものが延期になったり、生産中止になったりで先行きに不安がある。アメリカの景気が悪化している影響か。【電気機器】
- 我々中小企業は、まだ厳しい状況下であり、10月頃から各取引先が急ブレーキをかけ生産革命、海外生産などで厳しさが増している。【精密機器】